

令和5年度第2回福生市環境審議会の書面開催の結果報告

1 意見書提出期間

令和5年10月11日～(10月25日)11月15日

2 提出状況

提出者数10名(委員数10名)

3 議事に関する意見

(1) 第2次福生市環境基本計画(素案)に係る施策等について

《寄せられた御意見》

【上村委員】

◎33 ページ 4.基本目標と将来像

「これまでよりギアを上げて取り組まなければならない課題もあります」、「第1次計画の基本目標に現在の意義を加えた上で」という表現があるが、どのように反映させたか、具体的な記述が必要と思われる。

第1次計画で未達成であったものや取組が不十分であったもの、国・都の法令・計画等により対応が求められるものが中心になります。各分野の「重点課題」として示すこととしました。

また「現在の意義」の意図するところは、第1次計画にある3つの基本目標の説明文を、国・世界の潮流や地域の情勢等を踏まえ、かき見直した部分が該当します。

【古屋委員】

◎53・54 ページ (1) ポイントシステムの構築

環境政策に市民参加を促す動機付けとして、ポイントシステムは非常に興味深い取組であり、ぜひ実現に向けて取り組んで欲しい。

先進自治体の事例を参考にするとともに、福生市に適したシステムの構築及びポイントを貯めるだけでなく、貯めたポイントをしっかりと有効利用できるような、意義のあるシステムとなるよう研究していきます。

【千葉委員】

◎35 ページ 1.気候変動への対策

気候変動は、自然災害増加や人の健康被害などの直接影響は勿論、生態系のバランスがくずれ、食料供給への影響など、間接的影響を含め、今後、あらゆる環境問題に影響し、人類の存亡にも関わっているとされる、最も重大な問題である。

その中で、今回取り上げている対策は、電気やガスなどの省エネ、節約など、直接的対策に偏ってしまっていると思われる。「製造時にエネルギーを多く使う製品等の使用抑制」や「使い捨て商品や耐久性のない物の購入抑制」、「値段が高くても良い物を長く使うライフスタイル」、「物はエネルギーのかたまりであることの認識」などについて啓発する旨の記載を盛り込んでほしい。

また、ごみの減量という立場ではなく、気候変動への対策を考えた時、商品の包装や梱包について「リサイクルすればいい」ではなく、容器や包装材の簡易化がより一層進むことが大切であり、事業者と市民、行政（市役所）の連携により進める必要があると考える。

例えば、発泡スチロールの包装材、梱包材の使用抑制やプラスチック包装から紙包装（木から作る紙は地球環境循環の中でリサイクルされる資源）への切り替えが進むことが肝要であると考えます。

「気候変動への対策」の基本的な考え方に、循環型社会への取組と気候変動対策が密接に関わること、資源を大切にすることが気候変動対策の重要な観点であることを追記しました。

具体的な取組に関する事項は、内容から「循環型社会づくり」に記載する方が馴染むと考え、御意見をもとに取組について追記しました。

【島瀬委員】

◎18 ページ 市民アンケートによる気候変動影響のリスト(表)

市民アンケート結果の解説だが、気候変動の影響による変化ではないものも含まれていると思う。興味深く拝見したが、現在の示し方ではこのアンケート結果が即、気候変動の影響の例と受け取られてしまいそうである。

市民の意識であって、気候変動の影響による変化と科学的に明らかでないもの、科学的には他の要因による可能性があるものも含まれていることを注釈したほうが良いと思われる。

記載内容は市民アンケートで回答されたままの事象の記載であり、専門家の検証を経たものではない旨を追記しました。生物多様性についても同様の記載を追記しました。

◎20 ページ (5) 生物多様性に関する現状「多摩川」

河床の上昇が河原固有の動植物の減少要因のように読み取れ、その認識は既往の知見と異なると感じる。多摩川の河床は長期的に低下してきており、それが河川の複断面化とあいまって河道の固定化、植生繁茂を引き起こし、河原固有の動植物の減少につながっていると思われる。

市内の状況で言えば、永田橋より下流側では近年は礫が溜まって河床が上昇傾向のように見えるので、個別具体的な課題であれば、その旨記載の方が正確だと考える。

当該箇所の記載は、一般的な事象としての意味合いも含まれていることから、「河床の上昇」についての記載は削除しました。

◎20 ページ (5) 生物多様性に関する現状「崖線」

「雑木林の遷移に取り組んで」と記載してしまうと、雑木林を遷移させて照葉樹などからなる高木林へと誘導しているものと解されてしまう。

人の手を加えることによって一定の状態の雑木林を維持しようとしているのであれば「雑木林の管理に取り組んで」等の表現に改めるなど、誤解のない文章を検討されてはどうか。

誤解を避けるため、遷移ではなく維持という記載に改めました。

◎36 ページ 1. 気候変動への対策 (2) 気候変動適応策 ① 気象災害への備え

当該箇所の取組に、洪水対策として地域の雨水浸透対策を進めたり、農地の洪水調整機能を保全したりすることは、特に農地が減少し続けている近年では重要になっていると思われる。2. 生物多様性の保全 (2) まちなかの自然の創出にある雨水浸透対策、都市農地の保全の追記・再掲 について検討されてはどうか。

一部注釈を追記し、1. 気候変動への対策へ先に掲載して、後述の2. 生物多様性の保全に再掲する形としました。

(2) その他

【小倉委員】

◎地下水の PFAS について、調査等を行っているか。横田基地もあるので、市民の関心も高いと思われる。データを取得しておくことは、大切なことと考える。

現在、福生市独自で調査等は実施していません。市民の一番の関心事である上水については、東京都水道局が定期的に調査した結果をホームページに掲載しており、問合せの際は案内しています。

ただ、状況が都度変化していることから、今後は市独自の調査の実施等、検討していくとともに、地下水汚染等、市民の安全安心な暮らしを脅かす新たな問題への対処が重要になる旨、計画に追記します。